健康増進計画（健康はだの21）第4期計画

基本の方向性　Ⅲ　生活習慣病の重症化予防

取組分野　1　がん

評価指標	計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	目標値
子宮頸がん（20～69歳）検診受診率の向上	12.6%	11.4%	11.1%	11.6%	10.9%		50%
乳がん（40～69歳）検診受診率の向上	17.8%	17.0%	17.1%	18.9%	16.6%		50%
大腸がん（40～69歳）検診受診率の向上	8.1%	7.0%	6.5%	6.1%	6.6%		50%
精密検査受診率（大腸）の向上	70.8%（H28年度）	81.7%（H29年度）	90.6%（H30年度）	87.9%（R元年度）	85.5%（R2年度）		90%

重点目標　〈がん検診を受診する人を増やす〉

基本施策　○　悪性新生物（がん）の発生予防のための生活習慣についての普及啓発

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	実施状況及び成果等（R3）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　普及啓発事業	指　標	がん検診リーフレット配布枚数（固定配布）					・健康増進連携企業、神奈川県、柳町商店街の協力で、がん検診の案内をリーフレットで周知。 ・R2に続き、イオン秦野店と協力し未病改善ブースを開き、幅広くリーフレットを配布。 ・周知する機会を増やすため郵便局（市内14局）にがん検診普及のためのポスターの掲示や申込書の配架に向けた調整を実施した。 ・集団での健康教育が見合わせの中、感染予防対策をとり、小中学校で喫煙防止教育を実施し、たばこの発がん性について教育が	A	民間や令和4年度からは郵便局を活用してがん検診の周知の強化をしていく。 小中学校へ、感染症の蔓延状況を勘案しながら講演会の実施にむけ働きかけていく。	健康づくり課
目的：がんの発生予防のための生活習慣について知ってもらう 内容：広報などによるがん検診受診案内の実施 ポスター作成やパンフレットの配布 小中学校において喫煙防止に関する講演会の実施	目標値	14350枚 99か所	14350枚 99か所	14350枚 99か所	14350枚 99か所	14350枚 99か所				
	実績値	14350枚 99か所	14350枚 99か所	14350枚 99か所	18600枚 107か所					
	指　標	たばこの害や喫煙防止講演会の実施数（校）								
	目標値	3	3	4	4	5				
	実績値	3	5	1	2					

基本施策　○　科学的根拠に基づくがん検診の実施と受診率向上のための普及啓発及び環境整備

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	実施状況及び成果等（R3）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　がん検診の実施										
a）子宮頸がん検診	指　標	子宮頸がん検診（20～69歳）の受診率					受診行動しやすい環境整備と案内を実施 ・集団検診では、21歳の子宮頸がん無料クーポンを送付。対象者には、「女性医師による検診（レディスデイ）」を案内した。 ・レディスデイ（2日間）：受診者：64人（R2年度：40人） 〈参考〉神奈川県受診率（R2）：14.6	B	今後も、受診行動に結び付きやすい環境整備や案内を実施していく。 集団検診では案内の対象を全年齢とし、女性医師の日を継続していく。	健康づくり課
目的：子宮頸がんの早期発見をする。 内容：女性特有のがんを早期発見するため、子宮がん検診（個別・集団）を実施	目標値	20.1	27.6	35.1	42.6	50.0				
	実績値	11.4	11.1	11.6	10.9					
b）乳がん検診	指　標	乳がん検診（40～69歳）の受診率（%）					受診行動しやすい環境整備と案内を実施 ・集団検診では、41歳へ乳がん無料クーポン送付した。 ・今年度から国指針に沿いマンモグラフィ単独検診として実施。集団検診では、骨密度測定が同時にできる日を設定した。 ・10月、広報・タウンニュースでピンクリボン記事掲載、乳がん検診の周知を実施 ・レディスデイ（2日間）：受診者：96人（R2年度：78人） 〈参考〉神奈川県受診率（R2）：11.0	B	受診行動しやすい環境整備と案内を実施 ・集団検診では女性のみを対象とした4がん検診「女性の日」や子宮頸がん検診を女性医師にした「女性医師の日」に乳がんを同日受診できるように土日に実施していく。 ・	健康づくり課
目的：乳がんの早期発見をする。 内容：女性特有のがんを早期発見するため、乳がん検診（個別・集団）を実施	目標値	24.3	30.8	37.3	43.8	50.0				
	実績値	17.0	17.1	18.9	16.6					
c）大腸がん検診	指　標	大腸がん検診（40～69歳）の受診率（%）					受診しやすい環境整備と案内を実施した。 ・大腸がん単独受診の場合は、家族等による検体提出の受け付けを実施 ・新規の登録者もあり、受診率は微増した。併せて、胃がん検診の受診率も微増した。 〈参考〉神奈川県受診率（R2）：4.4	B	受診率を増やすため、大腸がん検診の必要性や採便方法等について、様々な講座を利用したトピック的な普及啓発も取り入れていく。 乳がん検診実施時に大腸がん検体提出ができるように改善していく。	健康づくり課
目的：大腸がんの早期発見をする。 内容：大腸がんの早期発見するため、大腸がん健診（集団）を実施	目標値	16.5	24.9	33.3	41.7	50.0				
	実績値	7.0	6.5	6.1	6.6					
イ										
目的：市民ががん検診について正しい情報を知る。 内容：広報などによるがん検診受診案内の実施やポスター作成やパンフレットの配布	指　標	子宮頸がん検診の新規登録者数（人）					・がん検診登録を勧奨するパンフレットは、申込をしないと受診できないことを明示した内容に改善し、コロナ禍においても民間の協力を得てイベント（未病改善ブース）等でも幅広く配布した。 ・広報掲載等、がん検診受診案内の実施 ・リーフレットやホームページ等でがんを予防するための生活習慣の普及啓発を実施 ・がん検診を申込制とし、年度途中の追加申請も可能にしたことで、登録者数が増えた。	B	普及啓発を実施する機会や配布数は増加しているものの、目標値には達成しなかった。今後も継続していくことが必要だが、医療機関、公的な場所での周知はほぼ行き届いているため、民間の協力を活用した周知に力を入れていく。	健康づくり課
	目標値	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000				
	実績値	1,287	1,624	1,317	2,019					
	指　標	乳がん検診の新規登録者数（人）								
	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000				
	実績値	1,117	1,498	1,266	1,856					
ウ　受診勧奨事業										
a）無料クーポン券の配布及び受診勧奨	指　標	子宮頸がん検診無料クーポン券利用率（%）					・乳がん・子宮頸がんは、女性のがんの中でも罹患する人が多く、特に、20～40歳代の女性では乳がんが死亡原因の上位であるため、20歳（子宮頸がん検診）及び40歳（乳がん検診）の年齢を対象に無料クーポン券を配布し、受診勧奨を実施。 ・子宮頸がんワクチンを接種しても検診は必要なお知らせを無料クーポンの案内に記した。 ・子宮頸がん検診は、12月末の時点で、利用率が4.9%と低かったため、未受診者742人にはがきによる個別受診勧奨を実施し利用率12.9%となった。	B	無料クーポン券利用率が低い子宮頸がん検診については、年度途中にも再度、受診勧奨はがきを送付し、若年層の受診率を向上させるための取組みを継続していく。 子宮頸がんワクチン接種と2年に1度の検診が子宮頸がんに予防早期発見に必要であることを周知していく。	健康づくり課
目的：若年層の受診率を上げる。 内容：無料クーポン券（子宮頸がん・乳がん）の配布及び受診勧奨	目標値	20.1	27.6	35.1	42.6	50.0				
	実績値	8.8	8.1	11.8	12.9					
	指　標	乳がん検診無料クーポン券利用率（%）								
	目標値	24.3	30.8	37.3	43.8	50.0				
	実績値	18.3	14.5	19.3	19.4					
b）受診年齢到達者への受診勧奨	指　標	40歳到達者の乳がん検診登録申込率（%）					がん検診の受診促進及びがんの早期発見につなげるため、翌年度に受診することができる年齢に達する方に対し、がん検診登録勧奨はがきを送付	B	引き続き、がん検診の有効性、定期的に受診することの大切さを周知していく。40代から50代の新規登録者は、主として電子申請を活用しているため、今後も電子申請を周知していくとともに、検診を受けやすい環境整備を行い、受診率の向上に努める。	健康づくり課
目的：がん検診登録者を増やす。 内容：翌年度受診年齢に到達する方への受診勧奨	目標値	50	50	50	50	50				
	実績値	28.2	24.5	25.3	28.2					
	指　標	40歳到達者の大腸がん検診登録申込率（%）								
	目標値	50	50	50	50	50				
	実績値	14.8	12.0	11.1	14.5					

○　精密検査受診率の向上と結果の把握

ア　精密検査受診率	指　標	大腸がん検診要精密検査受診率（%）					全国的に大腸がん検診の精密検査受診率は最も低いが、通知による精密検査のお知らせのほか、①結果票及び封筒の表に朱色で「重要」の印鑑を押す、②過去に精密検査の対象で、未受診者には、手書きのコメント及びリーフレットを封入した。	A	精密健康診査対象へのコメントを入れた通知や、未受診者への受診勧奨通知を継続実施していく。	健康づくり課
目的：精密検査受診率を増やす。 内容：精密検査未受診者への受診勧奨	目標値	70	75	80	85	90				
	実績値	81.7（H29年度）	90.6（H30年度）	87.9（R元年度）	85.5（R2年度）					